

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	片山誠一
所属機関名	生命科学部 医療技術学科
職位	教授
在籍年	25 年

教育の責任

生命科学部医療技術学科臨床検査学コースに属し、主たる教育活動は、微生物学関連科目（微生物学、臨床微生物学、微生物検査学実習、臨床免疫学実習）の担当及びゼミ生の研究支援を行っている。研究活動においては、「ウェルシュ菌の病原因子に関する研究」を長年行ってきた。また、大学運営に関しては、DNA組換え実験安全委員会の委員（病原性）を務めている。他に紀要委員会委員、放射線・X線安全委員会委員もしている。

教育の理念

微生物は、細菌・真菌・ウイルスに分かれる。微生物学を学んで学習者がそれぞれの特徴を理解できるようにする。病原微生物学では、臨床検査技師として患者から疾患の原因となる微生物を検出・同定できるように必要な知識と適切な検査法を習得させる。これにより、学生は、国家試験問題を解くための専門基礎力を獲得するだけにとどまらず、社会や医療における諸問題を発見し、それを解決するために必要となる科学的思考を養うことができる。

教育の方法・方針

1) 講義に関して：「微生物学」、「病原微生物学」では、臨床検査技師国家試験に対応した概念や知識、学術用語の理解を深めてもらっている。単に教科書を読むようなものではなく、プリントやスライドを多用し、視覚的にも内容を理解できるように工夫している。講義終了後は、その日の理解を再確認させるため、小テストを行っている。成績は、最終試験の点数で行い、臨床検査技師国家試験に必要な知識の蓄積を評価する。

2) 実習に関して：近年では、臨床検査技師国家試験で実際の検査法について具体的なデータからの出題が増加している。よって、実習では、重要な細菌や真菌のグラム染色像などを観察させるとともにその細菌の同定法を実際に体験させることで検査法を理解させる。基本的な培地等を作らせて、現場で無菌操作を行って検査が一からできるように技術習得させる。評価として毎回の実習で行った内容をレポートにして提出させている。毎回レポートには課題を与え重要な知識を再確認させている。これを繰り返すことで、実習の理解度が向上すると考えている。最終試験では、実習で得られた知識が身に付いているか点数で評価する。レポート点と最終試験の点数をまとめて実習の評価としている。

教育の成果

2025 年度授業アンケートの結果についてまとめると以下のようになる。1) 「微生物学」、「病原微生物学」の講義に関して目標達成度は、それぞれ 87 と 89%、成長は、90 と 85%、満足度は、90 と 89%、熱意は、77 と 89%であった。いずれも高い評価を得ていた。教育の方法・方針が成果を上げていると考えられた。配慮してほしい事項については、演習を増やしてほしいとの意見が少数あった。国家試験に必要な知識を蓄積させるためには、今後、善後策を考えて

いく。自由記載については、「病原微生物学」で、内容が多いため、ポイントがわかるようにしてほしいなどの要望があった。講義内容をより理解しやすくなるように今後も取り組んでいく。

2) 実習、特に責任者である「微生物検査学実習」については、目標達成度が、92%と高く、この分野への理解が深まったが、92%であった。満足度も 96%、教員の熱意・意欲は、96%とどのポイントでも高い評価を得られた。教育の方法・方針の成果が顕著であると考えられた。配慮してほしい事項については、スライドや黒板などが見にくいとの指摘があった。今後、実習室を B3 号館 1 階の大実験室から A1 号館 6 階の臨床実験室に変更する予定である。より明るい部屋になるので、スライドや板書、黒板やプロジェクターなどが見やすくなることが期待できる。自由記述では、「説明が冗長。」との指摘もあったが、技術などはしっかり説明しないと身に付かないので、理解していただきたいと考えている。その他では、「実習では病院実習の事前学習ができた。」との高い評価を学生から受けている。

今後の目標

微生物学担当教員として、臨床検査技師国家試験の対策を常に意識しながら教育する内容を充実させていく。また学生が、実際の検査技師として働くのに必要な考え方や技術を獲得できるように講義・実習を普段から見直ししながら改善していきたい。

根拠資料

- ・シラバス
- ・2025 年度授業アンケート結果